

# 平成26年度 病害虫防除技術情報 第9号

平成26年 9月5日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## 普通期水稲 病害虫の防除対策について

日照不足に関する大分県気象情報 第2号が9月1日に大分地方気象台から発表されました。

日照不足の影響で作物体の抵抗力が弱くなり、平年よりも病害虫の被害を受けやすい状況となっていますので、引き続き管理に注意が必要です。発病後の被害拡大も平年より速いと予想されるため、既に発生している圃場だけでなく、まだ発生していない圃場も含めて、防除を徹底しましょう。

### 1. トビイロウンカ

普通期水稲におけるトビイロウンカの発生状況は、現在のところ平年よりも少ない状況です。向こう1か月の平均気温は平年並の確率50%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%ですが、今後の気象条件によっては本虫の発生が増加する可能性もありますので、圃場での発生状況に注意しましょう。

#### 1) 発生の状況

- (1) 9月上旬の巡回調査の結果、トビイロウンカの発生圃場率 0.0%（6カ年の平均：7.6%、前年：34.6%）、株当たり虫数 0.1頭（6カ年の平均：0.3頭、前年：1.4頭）と平年より低い状況であった。短翅型雌成虫の発生圃場率（微発生以上の圃場）は14.3%（前年：57.7%）、株当たり虫数は0.01頭（前年：0.4頭）であった。
- (2) 8月25日に実施した県予察圃場における調査の結果、25株当たりの生息虫数は2頭（平年：13頭）と平年より少なかった。

#### 2) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は畦畔よりも水田の中央部に発生しやすく、また水田内の生息密度に偏りがあるため、水田内をよく確認し、圃場の見回りを十分行う。9月上旬から9月中旬に短翅型雌成虫が10株当たり2頭以上生息していた圃場、また9月中旬以降に成虫および老齢幼虫が株当たり5頭以上生息していた圃場では防除を行う。
- (2) 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に到達するように注意する。

## 2. 紋枯病

8月中旬の調査では平年より低い発生で推移していましたが、9月上旬の緊急調査の際は発生が目立つようになりました。また、普及指導員からも紋枯病の発生増加について報告されています。

### 1) 今後の対策

- (1) 株元の高湿多湿条件は本病の発生を助長するので、間断灌水を行うとともに、適切な肥培管理に努める。
- (2) 病斑高の高い圃場では、バリダシン液剤等を使用し垂直進展を抑制する。
- (3) 穂肥の過剰投与は、本病の発病を助長させるため、注意が必要である。

## 3. 薬剤散布に関する留意点

防除薬剤は、大分県農林水産研究センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、収穫期の近い水稲では農薬使用基準（使用時期、使用回数等）に注意する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)